

小野町の魅力を再発見！ 都市との交流を通じて

最近、新聞やテレビなどで「田舎暮らし」「定住・二地域居住」「ふるさと回帰」といった言葉を目にする、あるいは耳にする機会が増えています。

これらは、団塊の世代と言われる方々が2007年から2009年にかけて定年退職を迎えることを契機に、都市部で生活する方々を「田舎」の担い手として迎えようとする取り組みが、全国的な動きとなっているものです。

小野町では、小野町商工会が主体となって立ち上げた「小野町ふるさと暮らし支援センター（渡辺直忠理事長）」が、交流・定住人口の増加による地域活性化を目的に、都市と農村の交流事業を進めています。活動内容は、これまでも広報おのまちの紙面で紹介していますが、都市生活者を対象とする「田舎暮らし体験ツアー」や「ふるさと暮

らしセミナー」、体験農園」といった短期・中長期的に田舎暮らし、農村生活を体験できる機会を創出する取り組みを進めています。

これらの機会に参加された方の中には、小野町に生活の拠点を移された方もいらっしゃるようです。

最近では、主催事業のほか、活動状況を県内外で発表する機会もでき、1月18日には秋田県主催の「あきた交流定住フォーラム」で、1月26日にはNPO法人ふるさと回帰支援センター（東京都）主催の「第2回『100万人のふるさと回帰運動』受け入れ自治体コ－ディネーター養成研修セミナー」で、それぞれ先進事例として紹介され、取り組みの経過や活動状況の発表を行いました。

事例発表を行った蓬田守氏（ふるさと暮らし支援センター理事・商工会事務局長）は、「都市生活者の視点は、地域で見過ごされている資源に、新たな価値を生み出すきっかけとなり、地域の活性化にもつながるものと期待しています。」と、都市との交流事業に込める思いを伝えました。

みなさんの周りにある、まだ気づいていない地域の魅力を見つけてみませんか。



事例発表をする蓬田氏（左）



「あきた交流・定住フォーラム」の会場は満席



東京都練馬区にて「小野町ふるさと暮らしセミナー」を開催しました

2月17日に東京都練馬区の石神井庁舎において、小野町ふるさと暮らしセミナーが開催されました。

主催したのは、小野町ふるさと暮らし支援センターで、主に練馬区内の区民農園や市民農園を利用している方々を対象に、小野町の生活環境や地域の魅力を紹介しました。

このセミナーは、福島県地域づくり総合支援事業として実施している活動の一つで、今回が3回目の開催となりました。

練馬区役所、ふるさと小野町会等の支援により、多くの方が会場を訪れ、セミナーに参加されたみなさんと、小野町に移り住んだ方との懇談など、積極的な意見交換が行われました。



農村生活の魅力を伝えました